

第4学年 図画工作科学習指導案

4年 20名

指導者 伊勢 大毅

廣瀬 志帆

授業場 図工室

1 題材名 トントンつないで〈A表現（2）工作に表す・B鑑賞（1）ア共通事項（1）ア、（1）イ〉

2 題材設定の理由

本題材は、角材と板を組み合わせながら可動するようにつないだ形を表現していく。そのために組み合わせ方やつなぎ方、動き方を工夫して自分がイメージした形を立体的に表していく。自分の使いたい様々な形や大きさの木切れを選び、のこぎりで切ったり釘を打って組み合わせたりしながら生まれる形や動きに着目し、自分のイメージに合った動く仕組みのある作品をつくることをねらいとしている。

本学級の児童は、明るく元気いっぱい、学校での様々な活動に意欲的に取り組んでいる。絵をかいたり、工作をしたりすることが好きな児童も多く、図画工作科の時間を楽しみにしている。今年度の木工教室では、金づちや釘抜き、のこぎりの扱いに慣れ親しみ、木を切る感触や釘をリズムよく打つ心地よさ、材料の組み合わせ方を工夫してつくる楽しさを味わった。活動を通して、木切れや板材、釘といった材料を使って活動することへの関心が高まった。また、「つないで組んで、すてきな形」と「クミクミックス」での活動を通して、紙バンドや段ボールを組み合わせる活動をしながら偶然にできた形を楽しんだり、つなぎ方や組み合わせ方によって様々な形が生まれることのおもしろさに気付いたりした。しかし、自分の表したいイメージに適した材料や用具を選び、適切に使用する活動の経験があまり多くないため、友達と同じような色や形、イメージでの表現となってしまう児童も見られた。そこで、木材の特徴を生かして、材料や用具を主体的に選び試行錯誤を繰り返して自分なりの動き方のイメージを広げながら表現活動に熱中し、自分らしさのある表現をつくり出す喜びを味わうことができるようにしたいと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、まず角材と板をつなぎ合わせた動く仕組みから、どのような形が表現できそうかを考えイメージを膨らませることができるようにするために、しっかり切ったり打ったり試したりする時間を設定する。児童が思いのままに材料や用具を組み合わせることができるように、できるだけいろいろな形や厚さ・長さなど種類の異なる木材を用意する。また、それらを自分で切って様々な長さや角度にできるようにし、材料の形の面白さに気づき、豊かな発想ができるようにする。さらにその木材を組み合わせるために、釘や画鋸、ステップルといった材料を十分に用意すると共に、活動が行いやすい広さの場所や机などの配置を工夫し、つなぎ方や動かし方を何度も試しながら工夫できるようにする。そして、組み立てた木材が動く様子を、ICT機器を用いて動画で撮影し、鑑賞する時間を設定する。そうすることで、自分の表現を客観的に見て、改善点に気付いたり友達の工夫のよさを見つけたりして、見方や感じ方が深まるようにしたいと考えている。これらのことにより、色々な材料の組み合わせの面白さや表現の広がりにより児童が感じることでできる授業展開を目指したい。

3 題材の目標

(1)・角材と板を接合することを通して、形や色、組み合わせた時の動きなどの感じが分かる。

のこぎりや金づちを適切に扱うとともに、つなぎ方や動き方を工夫して表す。

(知識及び技能)

(2)・角材と薄い板を組み合わせることで生まれる形や動きから、自分のイメージを広げ、表したいものを思いつき、どのように表現するかを考える。

(思考力, 判断力, 表現力等)

(3)・進んで木を切ったり組み合わせたりし、立体に表し、それらを鑑賞する活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり、楽しく豊かな生活を表現しようとする。

(学びに向かう力, 人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
角材と板を接合することを通して、形や色、組み合わせた時の動きなどの感じが分かっている。 のこぎりや金づちを適切に扱うとともに、つなぎ方や動き方を工夫して表している。	角材と薄い板を組み合わせることで生まれる形や動きから、自分のイメージを広げ、表現したいものを思いつき、どのように表すかを考えている。	進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表し、それらを鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画 (全6時間 本時5/6)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等								
1 2	<ul style="list-style-type: none">活動への見通しをもち、動く部分の仕組みを考えながらアイデアスケッチを描く。試し打ちをして角材と板を接合する。のこぎりの適切な扱い方を確認しながら、いろいろな大きさや形に木材を切る。	<table><tr><td>知</td><td>○</td></tr><tr><td>技</td><td>◎</td></tr><tr><td>思</td><td>◎</td></tr><tr><td>態</td><td>○</td></tr></table>	知	○	技	◎	思	◎	態	○	<ul style="list-style-type: none">木切りに釘を試し打ちする活動を通して生まれる、動きの面白さや材料の組み合わせの面白さに着目している様子を観察する。自分のイメージに合った作品を工夫してつくれるように、用具・材料を適切に扱って材料作りを行っているか観察する。動きの面白さや材料の組合せの面白さに着目して、アイデアスケッチを作成している様子を観察し、指導に生かす。 <p>(観察, 対話, 作品)</p>
知	○										
技	◎										
思	◎										
態	○										
3 4	<ul style="list-style-type: none">アイデアスケッチをもとに、材料の組み合わせ方を工夫して表現する。	<table><tr><td>知</td><td>○</td></tr><tr><td>思</td><td>◎</td></tr><tr><td>技</td><td>◎</td></tr><tr><td>態</td><td>○</td></tr></table>	知	○	思	◎	技	◎	態	○	<ul style="list-style-type: none">材料の大きさや形などの特徴、動く仕組み、それらを組み合わせたときのイメージなどから発想を広げ、くぎの打ち方や木切れのつなぎ方などの工夫をして自分の思いを表現している様子を観察し、指導に生かす。
知	○										
思	◎										
技	◎										
態	○										
5	<ul style="list-style-type: none">さらに材料を付け加えたり形を変えたりして、組み合わせ方や動かし方を工夫して表現する。	<table><tr><td>知</td><td>○</td></tr><tr><td>思</td><td>◎</td></tr><tr><td>技</td><td>◎</td></tr><tr><td>態</td><td>○</td></tr></table>	知	○	思	◎	技	◎	態	○	<ul style="list-style-type: none">活動中に表現・意図を対話することにより確かめる。 <p>(観察, 対話, 作品)</p>
知	○										
思	◎										
技	◎										
態	○										

6	<ul style="list-style-type: none"> 出来上がった作品を見せ合ったり、作品で遊んだりして、よさや面白さを味わい、友達に伝える。 	思 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品からくぎの打ち方や材料の組み合わせ方・動きの面白さなどのよさを感じ取り、それについて伝え合っている様子を観察したり、ワークシートを見たりして、学習状況を把握する。 <p style="text-align: right;">(観察, 対話, ワークシート)</p>
---	--	------------	---

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時

(1) 目標

イメージにより近付けるために、さらに用具や材料の使い方、動く仕組みを工夫し、自分の思いに合った作品をつくることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体の評価規準	評価方法
5分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてを確認する。	前時までのそれぞれの活動の成果を確かめながら、振り返り、本時の活動のめあてをもたせる。 用具の安全な扱い方について再確認できるようにする。		
動きがもっとよくなるように、つなぎ方を工夫しよう。				
35分	2 つなぎ方や動く仕組みがよりよくなるように工夫しながら表現する。	対話することで自分の思いを具体化することができるようにしていく。 さらに発展させて新しい動きや形を見つけることができるように、具体的なつなぎ方の例を見せたり、友達の作品を参考にして工夫していくように助言したりする。	前時の活動をもとに考えたことや思いついたことから材料の組み合わせ方を変更したりつなぎ方を工夫したりして、自分の思いに合わせてつくることができている。 【技能・思考・判断・表現】	観察 対話 発言 作品
5分	3 本時の活動を振り返る。	授業中に撮っておいた表現の変容が分かる写真や動画を示したり、自分の活動を振り返る観点が明確に分かるようにしたワークシートを準備したりし、感想を伝え合う場を設定する。	自分のつくった作品の形や動きのよさやの面白さを感じている。 【思考・判断・表現】	ワークシート 発言

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none">• のこぎりや金づち、釘や画鋸などの用具や材料を主体的に選択して使い分けたり、つなぎ方や動く仕組みを工夫したりして、自分の思いに合った作品につくりかえていくことができ、楽しんで表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none">• 動く仕組みがうまくつくれない児童には、友達の作品を見て参考にするように促したり、画鋸で仮止めなどをして、つなぎ方や動かし方を試すことができるようにしたりすることにより、どこを直せばよいか気付くことができるようにする。• 独自の表現をしている児童を取り上げて全体に紹介したり、活動の合間に相互鑑賞を行ったりすることにより、表現の面白さを感じ、自分の作品に生かすことができるようにする。